

## 令和4年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

一般学科 教授 三浦大和

三浦大和教授は、平成8年11月に着任して以来、教育、学校運営、研究および地域連携の各面において次のような業績を残している。

教育、学校運営においては、平成9年度から指導教員を14回、学年主任を5回務め学生を主体とする学生指導を継続して行なってきた。委員会においては、図書委員を2回、企業での実務経験を生かし、産学官連携委員会WGから地域共同テクノセンター運営委員を12回、さらにテクノコンプレックス運営委員を5回務めた。また、独立法人化に向けて安全衛生を整えるため、安全衛生関連対策プロジェクトから安全衛生委員を6回務め、豊田高専の安全衛生体制を整えた。その間、寮監・学生主事補・教授法改善委員・マルチメディア情報教育センター室員を務め学校運営に尽力してきた。その後、安全衛生委員長を3回、将来構想企画室員を3回・外部評価対応委員を3回、教育改善推進室長を3回務めた。近年では、学生相談室長をはじめキャリア教育支援室員・ハラスメント相談員・いじめ対策委員を務めた後、学科長（教育進学委員・学生相談部門員）を4回務めている。

クラブ活動支援では、採用時の平成8年度後期より硬式テニス部副部長教員として指導に携わった後、バドミントン部副部長教員ならびに部長教員として他の顧問教員と連携し学生サポートならびに競技指導を行なってきた。また、地域のバドミントン協会と連携をとるなどして、地区大会運営にも長年尽力してきた。

研究面においては、合成化学研究室を立ち上げ、化合物評価の分析機器獲得に長年努力し、核磁気共鳴スペクトル測定装置やガスクロマトグラフ分析装置ならびに質量分析装置をはじめ多くの分析機器購入の予算を獲得した。これらの装置を用いた微量分析技術を教育現場にフィードバックし、本校教員とも研究連携することで卒業研究も担当してきた。また、近隣の研究施設である岡崎分子科学研究所・名古屋大学・名古屋工業大学研究者との連携、科学研究費補助金の獲得や米国カリフォルニア州立大学バークレー校ボルハルト研究室へ在外研究に行くなどして研究論文を執筆するなど実績をあげている。

地域連携としては、着任以来、産学官連携に携わっている。化学全般の知見を地域企業へ提供し、化学分野に限らず企業での実務経験を生かした金属加工・食品・電子デバイス・不動産関連の企業との技術・品質保証相談を始め、研究プロジェクト4件を実施、企業連携による新あいち創造研究開発補助金獲得、その他13件を超える寄付金を獲得するなどしている。また、県内小中学校への化学に関する公開講座や出前授業、ロータリー財団地区大会での燃料電池の試作に関する講演会、地域企業育成の講座においては非破壊微量分析を担当しており、受講生アンケートでは高い評価を得ている。

以上のとおり、三浦大和教授は、教育・学生指導・課外活動及び地域連携の各方面での活動に顕著な功績があったため顕彰する。

## 令和4年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

環境都市工学科 講師 大畑卓也

大畑卓也講師は、平成29年4月に着任して以来、教育、研究および学校運営の各面において次のような業績を残している。

学校運営においては、平成30年度から令和3年度まで寮務主事補を務め、主に高学年寮生や留学生の寮生活指導に携わった。寮のルールを違反した学生に対する指導については、懇切丁寧に学生からの聴取を行うことを心掛け、学生の成長を促す指導に努めている。令和元年度には、寮の新型コロナウイルス対策ルールの草案をまとめた。寮内のゾーニングや、寮食堂および風呂の時間帯別利用など寮内でクラスターの発生を起こさないようなルール作りに尽力した。さらに、令和元年度より、寄宿舎整備WGの委員として、輝志寮や栄志寮、友志寮の整備計画の立案に携わり、寮生の豊かな生活を施設面からもサポートし、寮生に寄り添った寄宿舎整備に大きく貢献した。

令和4年度からは環境都市工学科のクラス担任を務めている。3年生の担任であるため、ホームルームや学校行事、日頃の日直の仕事等もすべて「学生の自立」を意識し、長期的な視点を持った指導を実施している。また、5年生の研究室学生に対しては、社会人経験を活かした学生の進路指導に積極的に取り組んでいる。就職を希望する学生に対してエントリーシートの作成指導、集団・個人面接指導を行うことで内定率向上に貢献している。また、公務員試験対策の補講や大学編入学試験の過去問題の解説にも積極的に取り組んでいる。

部活動顧問としては、平成31年度よりバレーボール部、令和4年度より軽音部の部長教員、平成30年度からは女子バレーボール部の副部長教員を務めている。特にバレーボール部の活動では、学内での練習活動だけでなく、東海地区高専大会や西三河総合バレーボール大会などの学外での試合への引率も積極的に担当している。令和3年度の高専体育大会は、初めての東海北陸地区合同高専体育大会となり、豊田高専が主幹校を務めた。東海地区の高専と北陸地区の高専では、それぞれの慣習があり双方が歩み寄った形で大会実施要項を策定した。さらに、新型コロナウイルスの第4波が猛威を振るっていたため、毎週のように東海北陸地区の高専と協議を重ね、無事に主幹校としての役割を果たすことができた。

令和3年度には、DCON2022において建設工学専攻と情報工学専攻の学生に対し、プロジェクトのイントロダクションと経営計画書の作成などについて熱心に指導した。その結果、豊田高専のチームは本選出場を果たした。また、学生達のプレゼン指導をメンターと協力して実施した結果、企業賞の受賞を果たした。

研究活動については、コンクリートに関する研究を行っており、その成果は、コンクリート工学年次論文集を中心に公表しており、学術論文が13報ある。2013年、2014年には土木学会年次学術講演会において優秀講演者表彰を受賞しており、同氏の研究成果は学術界で高い評価を得ている。

以上のとおり、大畑卓也講師は、学校運営、教育活動、研究活動などに貢献があったため顕彰する。

## 令和4年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

一般学科 講師 筒石奈央

筒石奈央講師は、平成29年4月に着任して以来、教育、研究および学校の運営の各面において次のような業績を残している。

学校運営においては、令和元年度前期を除く平成30年度から現在に至るまで、寮務主事補を務め、教職員および指導学生と協働し、寮の円滑な運営に貢献している。特に、女子寮および低学年の学寮教育を担当し、寮生活における様々な問題に対して学生と対話しながら、その都度適切に対応している。令和2年度からはコロナ禍での学寮運営となり、学校再開時には学寮での感染対策と安全性に配慮した居室・共有スペース・食堂・浴場等のルール作りに力を注いだ。その後も、感染対策をした上での学習室の再開等、学生の自発的な提案・運営に対して、感染状況を踏まえながらサポートしている。また、令和元年度前期には教務主事補を務めた。合理的配慮の提供にあたり、学生・保護者と丁寧なコミュニケーションを取りながら内容を調整し、教職員と連携して実施状況の確認などを適切に行った。また、任期中は障害学生指導部門員を務め、障害学生支援実務者育成研修会に参加するなど、学生指導の在り方や手法について積極的に学び、本校での教育に還元しようと努めている。

教育活動においては、本科の数学科目を担当している。工学への応用に資することを念頭に、基礎学力の定着と論理的思考力の習得に重点を置いた授業を行っている。毎回十分な時間をかけて教材研究を行い、授業に取り組んできた。その結果として、授業評価アンケートでは「解説が丁寧で分かりやすい」「教え合いの時間があり意欲的に取り組めた」「課題復習の時間がためになる」等前向きなコメントが得られている。また、数学科目の教員と連携し、1年生を対象とした数学勉強室を年間20回程度開いている。そこでは、入学直後の学生が質問しやすい雰囲気づくりにも力を注いでおり、学生に寄り添いつつ、個々の学力に即した指導を行うよう努めている。その結果、勉強室に継続参加している学生については、試験結果の向上が認められている。

課外活動については、平成29年度はバスケットボール部の副顧問として、平成30年度から現在に至るまでは吹奏楽部副顧問として、日々の活動や遠征、合宿、定期演奏会などのサポートを行っている。

研究活動においては、代数体上の楕円曲線に関する研究を遂行している。コンダクターの小さい楕円曲線の決定アルゴリズムを構築し、その研究過程で得られた楕円曲線のある不変量としての無理数について豊田高専紀要にまとめるなど成果を挙げている。

地域貢献活動、その他に関しては、学校説明会や体験入学などを通して、本校のPR活動に努めている。

以上のとおり、筒石奈央講師は、本校教職員の支援を受けながら、学校運営、教育活動、研究活動などに貢献があったため顕彰する。